キッズやましな　支援プログラム(案)			
支援プログラム		支援内容	5領域
保育室の環境設定		・室温や湿度、換気に留意し健康的に過ごせるようにする。	健康・生活
		・感染症の予防や早期発見に努める	
		・予測される行動や事後を知り危険物を取り除いた物の配置を考え事故を予防する	
受け入れ	視診・体温チェック	・家庭との連絡を密にとり健康状態を把握し一人一人の生理的欲求にこたえる。	
朝の会	日にちの確認	日めくりカレンダーを使い、日にち、数字に触れる機会を作る。	認知・行動
	呼名	・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得をめざす。 ・大人に介助されながら、自分と他者の存在に気が付けることを目的とし、名前を呼ばれたら手のひらと手のひらを合わせハイタッチをする。 繰り返し行うことで習慣化され、見通しが持てるようになる。 ・個別配慮として過敏が強い児童には、事前にマッサージを行ったり手のひらではなく過敏が少ない場所でハイタッチができるようにする。	言語 コミュニケーション 人間関係 社会性
	あいさつ	・基本的生活スキルの獲得	健康・生活
	赤ちゃん体操	・運動的な活動を促すことを目的とする。 ・五感の働きを豊かにする基礎を培う。 ・応答的な関わりの中で安心して過ごせるようスキンシップをとり生理的欲求を満たし信頼関係を築いていく。 ・触覚過敏がある児童にはゆっくりとやさしく包み込むように圧迫していく。 ・触れられることに慣れ、身体(手、足、お腹)の部位を知っていく。	運動・感覚 認知・行動
個別活動		個別支援計画にそった活動を遊びの中から伸ばしていく。	
個別活動	粗大あそび	・リハビリテーションの実施 遊びを通して、それぞれの子どもに合わせた課題を取り組む。 ・マット運動、バランスボールなどを個々に合わせた運動遊びを行う。 姿勢を保ったりバランスをとり身体全体を使う意識を持つ。	運動・感覚 認知・行動
	感触あそび	手形、足形を絵具でとり、冷たい、ぬるぬる、くすぐったいなどの感触を味わう。 砂遊び、粘土遊びをとおして五感を刺激する。	運動・感覚 認知・行動
	手のあそび 指先あそび	カプセルトイ、洗濯板ビーズ、ボールプール、円柱ペグ、ペットボトル落としなどのおもちゃを使い、手を伸ばす、握る、押す、引っ張る、放すを経験する。 状況に応じてバランスよくおもちゃを提供し、色々な体験につながる支援を行う。	運動・感覚 認知・行動 言語 コミュニケーション
	ふれあいあそび	非音声言語的コミュニケーション支援 ことば以外の様々な表出行動を見逃さすひとりひとりのコミュニケーションの方法をじっくりと観察して知っていく。 近づいて声をかけると、目を開けたり眼球の動きが活発になったり、人を探そうと顔を向けたりする反応(人や物への定位、注意反応)を引き出せる環境を作り、その子がどのような表出をしているのかよく観察する。 「イエス・ノー」の応答がひとりひとり違うため見逃さないようにする。	言語 コミュニケーション
	戸外あそび 散歩	外気浴、日光浴で丈夫なからだをつくる。 近所の散歩や公園に出かけることで季節を体感する。	運動・感覚 認知・行動 言語 コミュニケーション
食事	昼食	楽しく食事ができるよう環境を整え、経管栄養の子も一緒の空間で食事を楽しむ。 口から食べることが難しい子でも唾液を飲み込んだり口腔ケアをしっかりとしていくことで、食べる意欲を育み健康に過ごす基盤を作っていく。	健康・生活
リラックスタイム	リラックスタイム 午睡	体を休める環境を整える。布団を敷くなど。 睡眠中の衣類や布団の状態に注意し、呼吸状態をチェックしていく。	健康・生活
おやつ	おやつ	楽しく食事ができるよう環境を整え、経管栄養の子も一緒の空間で食事を楽しむ。 口から食べることが難しい子でも唾液を飲み込んだり口腔ケアをしっかりとしていくことで、食べる意欲を育み健康に過ごす基盤を作っていく。	健康・生活
集団活動 (設定保育)	音楽あそび	音楽に合わせて楽器演奏を経験する。 鈴を振る(振ると音が鳴る)、太鼓をたたく(叩くと音がする)、など	認知・行動
	絵本読み	見る・聞く経験を通して、顔をあげる、目で追う経験を作る。	運動・感覚 認知・行動 言語 コミュニケーション
	運動あそび	体操、音楽に合わせて体を動かす経験をする。	
	製作活動	絵の具、のり、ペン、指スタンプなど感触遊びを取り入れながら作る楽しさを味わう。 姿勢を保つ、物を見る、指示を理解する。手、指の微細運動など色々な感覚を意識的に刺激する。	
帰りの会	シール貼り	出席カード(シール貼り)	認知・行動
	呼名	・人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得をめざす。 ・大人に介助されながら、自分と他者の存在に気が付けることを目的とし、名前を呼ばれたら手のひらと手のひらを合わせハイタッチをする。 繰り返し行うことで習慣化され、見通しが持てるようになる。 ・個別配慮として過敏が強い児童には、事前にマッサージを行ったり手のひらではなく過敏が少ない場所でハイタッチができるようにする。	言語 コミュニケーション 人間関係 社会性
	あいさつ	・基本的生活スキルの獲得	健康・生活
送迎	家族支援	その日の療育の様子を伝える。 家族が安心して利用できるよう互いに連携をとっていく。	家族支援